

海外情報



ノンウーヴンズ・マーケット特約

■北米

米欧でフラッフパルプ値上げ

北米の一部のフラッフパルプメーカーは、9ヵ月間の価格据え置きの後、4月に米国と欧州で40ドル/tの値上げに踏み切った。

フラッフメーカー、ワイヤーハウザー社とバックイ・テクノロジーズ社は4月1日、米国でフラッフパルプ価格を640ドル/tに値上げし、ボーウォーター社も国内の顧客に対し、同様の値上げの意向を伝えている。

またジョージア・パシフィック社とインターナショナル・ペーパー社は、欧州のフラッフパルプ表示価格を570ドル/tに値上げする考え。

フラッフパルプと同様、南方松繊維を使用している南方晒針葉樹クラフト(SBSK)パルプは、経済状況により紙需要が乱高下し、過去9ヵ月以上、不安定な状態であった。

一方、フラッフパルプ価格は、ベビー用、大人用紙おむつ、生理用品などの最終製品の需要が比較的一定していたため、おおむね安定していた。

SBSK 価格は、昨年7月には480ドル/tに値上がりしたものの、12月には460ドル/tまで落ち込み、3月に13%上がって520ドル/tとなった。今後、さらに40ドル上がり、560ドルまで達するものとみ

られる。この9ヵ月間、フラッフパルプ価格は横這いだったが、SBSK価格の上昇とともに値上がりしていく見込みである。

■北米

自動車市場で不織布需要が増加

ヘッドライナー、ドアトリム、カーベットなど北米の自動車・トラック内装用品市場で、不織布業界にとってまたとないビッグチャンスが訪れようとしている。

現在、米国、カナダ、メキシコで販売されている新型自動車の座席/トランク用布地は年間3億㎡近くが消費されているが、主要な素材は織物やニット、シヨデイである。

欧州やアジアと同様の素材の使用傾向が高まると、たとえばヘッドライナーやカーベットなど多くの素材は不織布に転換されると予想される。

02年、北米では、ヘッドライナーの80%以上がトリコット製で、10%が不織布製であったが、世界の他の地域では、状況は大きく異なった。

ちなみに日本では、ヘッドライナーの80%が不織布で、10%がトリコット、10%が他の素材である。韓国では不織布製ヘッドライナーは60%を占め、トリコットや他の素材は残り40%を占めている。欧州ではおよそ半分に不織布が使用されている。

なお、カーベットでは、北米の90%のフロアカバーはタフテッドで、10%がニードルパンチである。一方、日本では80%近くがニードルパンチで、欧州でも60%を超える。

■欧州

生産量の伸びに反し価格低下

EDANA (欧州不織布協会)によれば、02年の欧州の不織布生産量は8%増加し、120万tを超えたが、これは不織布平均価格の低下によるものであった。

この生産量は、01年の時点で欧州の

不織布の75%以上を生産した不織布メーカーの公表データと外挿法により割り出された。

初期データは、生産量の上昇を示したものの、出荷量は売上の上昇とは連動しなかった。一方、多くの最終製品分野で、不織布平均価格の実質的な低下が見られた。

不織布の生産能力を種類別に見ると、水流絡合が20%以上増加し、スパンメルトが11%以上増加、湿式が平均的な増加で、エアレイドはわずかな伸びを示すに留まった。

製品別では、サニタリー分野で大人用紙おむつが最大の伸びを見せた。女性用サニタリー製品は技術面で大きな変化が見られた。パーソナルケアのワイパーは20%以上成長。工業用製品は、全体的に生産量が増加し、なかでも家具、室内装飾製品、テーブルトップ製品が目覚ましい伸びを示した。

■アジア

中国で不織布輸入量が2桁増

中国が最近発表した年間貿易収支実績によれば、同国の02年不織布輸入量は、長期的な増加傾向に変化がなく、顕著な増加を見せた。

一方、アジア最大の不織布輸出国である韓国と台湾は、近隣諸国への不織布供給が好調で、不織布の貿易収支は堅調に推移した。

中国の02年の不織布の輸入量は20%増の8万3,271tで、輸出量は30%増の5万6,000tだった。02年の中国の輸入量の58%はフィラメントベースで、01年以降の伸びは、米国からの輸入量が約50%増の1万6,200tとなったことが影響している。

残りの約40%を日本、韓国、台湾が占めている。米国からの輸入量の増加は主に中量フィラメント(25~70g/m)によるもので、フィラメント不織布全輸入量の約63%を占める。非フィラメ

ントでは、約半分が150 g/mの重量素材であった。

■ポリマー・グループ (米国)

衛材・医療分野の事業を再構築

不織布メーカー、ポリマー・グループ (PGI) は破産保護適用を申請した後、失った事業のいくつかを今後1年間で回復できると見ている。

PGIは、次の4四半期で10～15%の成長を計画しているが、事業再構築による市場シェアの回復には時間がかかるとしている。これは、同社の米国での売上増強は困難を極め、とくに世界的な事業展開を行っている顧客のサニタリー・医療の分野での交渉が難航しそうなためである。

PGIの02年10-Kアニュアルレポートによれば、最大の顧客であるプロクター&ギャンブル社のPGI製原反購入額は、PGIの01年度総売上上の13%を占めていたが、02年には12%に減少した。

また、ジョンソン&ジョンソン社も01年には13%を占めていたが、現在では2桁台を割り込んでいる。PGIの顧客上位20社の原反購入額の総売上高に占める割合は、01年には50%であったが、現在は47%まで落ち込んでいる。

PGIの不織布事業の営業利益は、01年1億9,200万ドルから28.6%減少し、1億3,700万ドルとなった。

■ポリマー・グループ (米国)

事業再構築の準備が整う

ポリマー・グループ (PGI) は規模を縮小し、破産後の事業再構築に向けた準備を整えている。同社CEOによれば、執行部は今後も改革の先頭に立ち、同社事業全体の刷新に専念する。

03年は安定の時期とし、衛生、医療、工業、ワイパーといった主要基幹産業に注力していく。同社は成長部門にも投資していくが、過剰投資はPGIの経営危機の一因となったこともあり、過去のような投資過剰を繰り返さないよう

にする。

たとえば、同社はAPEX技術の商業化に数百万ドルもの投資を行ったが、最先端技術の水流絡合素材のマーケティング戦略は利益をもたらさなかった。米国での破産手続きにより、同社は負債総額を12億ドルから5億ドル未満に減らした。

03年、同社はいくつかの新製品を販売し、新発想のマーケティング戦略により水流絡合、スパンメルト、カード式を市場展開していく。

同社はメキシコ工場にライフエンハウザー社製のラインを増設し、今年末に稼動を開始する予定。また、コストダウンにより値ごろ感のある価格設定を行っていく。製品の基礎コストを抑え、新製品を展開していく。

■BBA ノンウーヴンズ社

広範囲の事業を統合

BBA ノンウーヴンズ社は、全世界16カ国にまたがる26工場のサニタリー/工業用製品事業を統合し、管理・研究部門の一極集中化を図る計画である。同社は現在、サニタリー部門の大手原反メーカーであるが、今後は工業用素材事業にも力を入れるとしている。

同社の新管理体制は今後、顧客への製品供給態勢の整備に向けて動き出す。03年2月から実施されている企業再編計画はコスト削減が目的ではないが、従業員は10%がレイオフされた。同社は、将来の業界力学の変化、競争の激化に対応できる、より統合的な企業の体制づくりを目指している。

新体制下では、北米サニタリー/工業製品事業部長に、北米サニタリー事業部のボブ・ブリットン前社長が就任、欧州サニタリー/工業製品事業部長には欧州サニタリー事業部のギャルイジ・フォルノニ前社長が就任する。

BBA ノンウーヴンズ社は、企業再編とは別に、英国BBAグループの一部門

として今後、工業製品市場に注力していく。世界的に見れば現在、工業用素材市場は少なくとも25カ所あり、400～600の買い手が存在している。

■ミリケン社 (米国)

ディロ社製新型ニーパン機設置

ファブリック・カーペットメーカー、ミリケン社はサウスカロライナ州の工場に、数百万ドルの新型ニーディング機を設置した。新装置はディロ社製の“DI-LOUR IV”で今年設置され、2つのニーディングステーション、共通のブラシコンベアを有している。

自動車業界の素材供給メーカーによれば、同機は自動車内装用の細パイルベロア素材も生産が可能という。今後、競合他社はミリケン社の新型ニーディング機に対する対抗策を講じなければならないだろうとしている。

ウェブサイトによれば、ミリケン・グローバル・オートモーティブ・グループは世界29拠点で営業活動を行っている。同グループは主要3市場に、業界最高の多様な素材と加工技術を提供している。

なお、詳細は明らかではないが、ディロ社は新機械の販売については認めている。“DI-LOUR IV”は約200万ドルで、現在入手可能な機械の中では最新式のニーディング機である。

■クリーバー・アソシエーツ社 (米国)

高吸収性樹脂市場に参入

不織布代理店、クリーバー・アソシエーツ社は、原反の流通・販売だけでなく、顧客リストに高吸収性樹脂メーカーのコロン・ケミカル社を加えることで、高吸収性樹脂市場に参入する。

同社は最近、全額出資の子会社ウォーターマーク・ロジスティックス社を立ち上げ、米国を拠点に海外から主原料を輸入している製造会社や北米向け製品メーカーに対して、輸入代行・物流サービスの提供を開始した。

クリーバー社は、新規採用したサニタリー関連業界で20年の実績を持つスコット・スニード氏に、コロン・ケミカル社の米国・カナダでの事業展開、製品開発サービスを担当させる。

クリーバー社によれば、ウォーターマーク・ロジスティクス社は、メーカーや加工業者が1ヵ所でニーズを満たすことができるワンストップ・ショップ的な特長を備えた会社である。

同社の主要顧客は、イスラエルのアヴゴール・ノンウーヴンズ・インダストリーズ社やイタリアのテノテックス社

といった素材メーカーである。

現在、高吸収性樹脂市場は需要供給のバランスが良好で、同社は市場参入の好機と見た。

■ポール・ハートマン社（ドイツ）

欧州3ヵ所に子会社設立し売上拡大
ドイツのサニタリー・医療用品メーカー、ポール・ハートマン社は以前の事業パートナーを買収しイタリア、ルーマニア、ノルウェーに子会社を設立し、海外売上を伸ばしている。

同社は今年初め、84年以来同社の製品販売を行っていたDASハートマン社

の全株式を買収した。この買収により、ハートマン社は患者ケア・医療事業を拡大する。

同社はまた、ルーマニアのTAMFプロメテウス社の全株式を購入し、ルーマニアにポール・ハートマンSRL社を設立した。これは同社がルーマニア市場の成長を確信したためである。

さらに、ハートマン社は8月にノルウェーに子会社を立ち上げ、大人用紙おむつ事業に注力していく。同社は昨年12月にオーストラリアのウィリアム・パース社も買収している。

機器紹介

コルテック

自動紙管切断機“CP-370”

コルテックは、自動紙管切断機“CP-370”を開発、同機の販売を開始した。紙管をセットし、寸法を入力するだけで、希望の寸法に必要な数だけ切断する。

【特長】

(1)切断寸法の設定はタッチパネルで簡単操作

(2)紙管を挿入し、運転スイッチを押すだけで、必要な寸法を必要な数だけ切断する

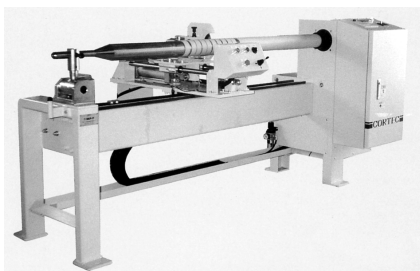
【仕様】

紙管長さ：1,500mm

紙管内径：φ1インチ以上

寸法精度：±0.1mm以内

チャック回転数：0～280rpm



カッター横移動速度：150mm

切断スピード：2秒以内

機械寸法：2,660×1,100×1,030mm

電源：3相、200V、1.5kW

問合せ先

(株)コルテック

〒596-0105大阪府岸和田市内畑町213-1

TEL0724-79-1279 FAX0724-79-2269

森田工業

森田式リサイクルシステム

近年製品のリサイクル問題が社会問題として大きく取り上げられ、製造工場から発生する製品屑や不良品処理については各社とも関心が高い。

風力分離装置“森田式リサイクルシステム”(PATENT NUMBER 3410973号)は、低コストで製品屑や不良品を粉碎・分離まで行う一連の連続した設備である。



リサイクル製品の重要なポイントは、ランニングコストの低減と自動化による人手の削減であり、処理された原料は資源として再利用可能な状態に仕上げることが重要なポイントになる。

同システムを用いれば、樹脂と繊維の合成製品や樹脂と金属の合成製品などの粉碎分離が可能となる。

問合せ先

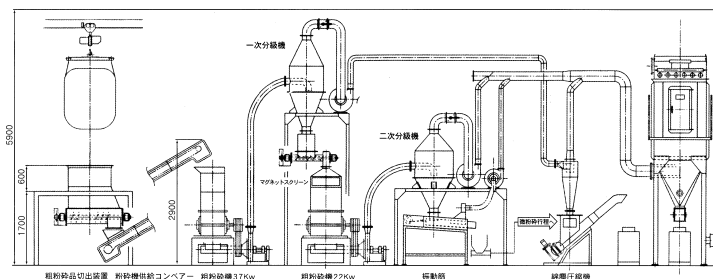
森田工業(株)

〒532-0011

大阪市西淀川区西中島3-19-13

TEL06-6302-2334 FAX06-6305-1286

http://moritak.com



フローシート